

プレスリリース

2024年6月18日
国境なき医師団 (MSF)

ロヒンギャ難民：バングラデシュのキャンプ郡の 5 人に 1 人が C 型肝炎に感染 ——援助機関による共同対応が必要

バングラデシュのコックスバザール県内キャンプ群に暮らすロヒンギャ難民を対象に、国境なき医師団 (MSF) が実施した調査によると、成人難民の 20%が C 型肝炎に感染していることが明らかになった。世界的にも前例のない有病率であり、キャンプ内に暮らす 8 万 6000 人が感染していると推定される。ロヒンギャ難民は国籍も法的地位もなく、生活のほとんどを人道援助に頼らざるを得ない状況が続く。キャンプでは診断や治療の機会は乏しく、MSF は他の人道援助機関などに対し、この病気への共同対応を呼びかけている。

致命的な肝がんになる恐れも

血液を介して感染する C 型肝炎ウイルス (HCV) は、感染後、体内に長期間潜伏することがある。治療しなければ肝臓の病気を引き起こし、肝硬変や肝臓がんなど命にかかわる合併症に進行する可能性もある。また、糖尿病、うつ、重い疲労感など、いくつかの疾患を発症するリスクも高まる。

コックスバザールの難民キャンプ群では過去数年間、C 型肝炎患者の増加がみられたため、MSF の疫学研究センターであるエピセンターは、2023 年 5 月から 6 月にかけて、7 つのキャンプの 680 世帯を対象に調査を実施した。その結果、キャンプに暮らす成人のほぼ 3 分の 1 が、C 型肝炎に感染したことがあり、約 5 人に 1 人 (20%) が活動性 C 型肝炎に感染していることが分かった。調査結果を元に推定すれば、キャンプの成人約 8 万 6000 人が感染していることになり、治療とさらなる感染拡大防止のために迅速な対応が求められる。

追い詰められた先の窮地

「世界で最も迫害されている少数民族のひとつであるロヒンギャの人びとは、出生国で安全な医療を受けられなかった代償を長年にわたり払わされています」と、バングラデシュにおける MSF の活動責任者、ソフィー・ベイラックは説明する。

「キャンプに住む難民の間では、消毒されていない注射器などの医療器具が広く使用されており、これが、この定員超過のキャンプ内で C 型肝炎の感染が続き、有病率が高い理由だと考えられています。」

治療のニーズは MSF の対応限界を上回っており、毎日患者さんを追い返さなければならないのが現状です。患者さんにとって、キャンプ内の MSF 診療所以外に受診できる選択肢はまずありません。日常生活のあらゆる面で行き詰まりを感じている人びとにとってのさらなる窮地です」

治療法はあるが、機会が足りない

中・低所得国の多くでは C 型肝炎の診断・治療機会は不足し、公衆衛生上の脅威となりつつある。一方で、直接作用型抗ウイルス薬により、HCV 感染者の 95%以上が治癒する。しかし定員超過のコックスバザールの難民キャンプ群では、診断・治療機会は無いに等しく、MSF はこの 4 年間、単独で担ってきたものの、ニーズは極めて高いままだ。

ロヒンギャ難民には、労働とキャンプ外への移動の自由は認められていない。当然、MSF が治療できない人たちは、キャンプ外で診療を受けたり、高額な費用を負担したりすることはできない。ベイラックによると、ほとんどの難民は治癒しないまま、代替医療に頼るが、効果はなく、健康リスクもあるという。ベイラックは続ける。

「MSF は、900 人の C 型肝炎患者をキャンプ内の 2 カ所の診療所で治療するという、世界保健機関（WHO）、国際移住機関（IOM）、セーブ・ザ・チルドレンの発表を歓迎します。ただ、HCV の感染経路を効果的に潰し、合併症や死を避けるためには、『検査と治療』を目的とした大規模キャンペーンが必要です。

そのためには、難民キャンプの人道対応調整官の関与と決意が欠かせません。キャンプで暮らす難民は、どの世代も C 型肝炎の影響を受けています。1 日 1 錠を 3 カ月間飲むだけという、非常に効果的で、忍容性が高く（副作用が比較的軽いため患者も耐えやすい）、その上安価な治療法は存在します。キャンプでは治療できないという理由だけで、難民を命のリスクにさらしてはいけません」

WHO のガイドラインや、MSF が同様の状況で使用する簡略的な治療モデルは、リソースが不足する場合でも、人道的使用において C 型肝炎治療を効率よく拡大し、良好な成果を上げることが証明されている。過去 2 年間、MSF はバングラデシュ保健省による C 型肝炎治療用の臨床ガイドライン起草を支援してきた。MSF は、引き続き国家当局、政府間組織、NGO と連携し、予防・健康推進活動を展開するとともに、コックスバザールの全キャンプで大規模な「検査と治療」キャンペーンを実施し、ウイルスの感染を抑え、できるだけ早く多くの患者を治療することを目指している。

MSF の活動、検査価格の壁

MSF は 2020 年 10 月から、コックスバザールのキャンプ群で難民を対象に、キャンプ内 2 カ所の医

療施設で、HCV のスクリーニング、診断、治療を無償で行っている。2024 年 5 月までに、MSF は活動性 C 型肝炎感染の疑い例 1 万 2000 人余りに、GeneXpert 使用による検査を実施し、活動性感染が確認された 8000 人余りの患者が治療を受けている。患者数の増加を受け、プログラム開始から間もなく、MSF は入院患者の年齢を 40 歳超とするなどの制限を設けざるを得なくなった。MSF では現在、新規患者を月に最大 150～200 人受け入れている。

MSF は HCV 量検査にも用いられる検査機器 GeneXpert のメーカーであるセフィエド社とその親会社ダナハー社に検査カートリッジの価格を引き下げよう求めてきた。このカートリッジは現在、低・中所得国向けに 1 回 15 米ドルで販売されているが、MSF が委託した調査によると、このカートリッジを製造し、利益を得て販売するために必要なコスト（1 回 5 ドル）の 3 倍余りに当たる。求めを受け、ダナハー社は 2023 年 9 月、標準的な結核検査カートリッジを 1 回 10 ドルから 8 ドルに値下げすると発表。しかし、同社は C 型肝炎を含む他の病気の検査では、少なくともその 2 倍の価格を請求し続けている。MSF は両社に対し、救命治療につながる可能性のあるこの検査を、より多くの人びと、特にロヒンギャ難民のような弱い立場の人びとが利用できるよう、全てのカートリッジ価格を 5 ドルに引き下げよう求めている。

以上

本件に関するお問い合わせ先：

特定非営利活動法人 国境なき医師団日本 広報担当：舘 俊平

携帯：080-2344-0684

E-mail: press@tokyo.msf.org <https://www.msf.or.jp>

メディア向け X(旧ツイッター)アカウント：@MSFJ_Press